

生活ゾーン規制の効果と問題点に関する一考察

大阪市立大学 工学部 正員 西村 昂; 大阪府立工業高等専門学校 正員 高岸 節夫
 近畿大学理工学部 正員 三星 昭宏, 近畿大学工学部 正員 高井 広行
 東洋情報システム 正員 矢野 公一

1. はじめに 生活ゾーン規制は大阪府下では昭和49年度以降実施され、その平均面積は約1km²で、年々約80ゾーンが設定されている。実施計画数は556地区で、54年度末までに476地区が実施済である。しかし、地域住民の生活ゾーン規制に対する反応も賛否両論があり、その実態を研究することは今後の交通運用を考える上で重要な課題といえよう。

本研究では、道路および交通状況等の物理的な調査、および、生活の主体である住民の意識調査を行ない、生活ゾーン規制の実態、効果、問題点の検討を試みている。

道路、および、交通状況の物理的な調査として、交通量、駐車量、発着量、速度、騒音調査を行ない、また、同じ地区で意識調査も実施した。調査対象地区は大阪府下の7地区(53年に高倉内代、中宮大宮、小松大隅の3地区、54年には高殿、長栄寺、俊徳、平野の4地区)とした。この他に大阪府下の生活ゾーン規制75地区において、交通事故の発生状況の前後比較調査を行なった。

表-1 生活ゾーン規制と交通事故の変化

区別	事故期間	事前 (53年)	事後 (54年)	増減数	増減率 (%)
大阪府下 (75地区)	交通事故数	2324(31.0)	2214(29.5)	-110(-1.5)	-4.7
	歩行者事故	839(11.2)	699(9.3)	-140(-1.9)	-16.7
	自転車事故	513(11.2)	681(9.1)	+168(+2.2)	+32.7
	車両事故	972(13.0)	834(11.1)	-138(-1.8)	-14.2

(注) () 内はゾーン単りの件数

2. 交通事故の変化 表-1は昭和52

年から53年にかけて大阪府下で実施された生活ゾーン規制地区のうち75ゾーンについて、実施前・後それぞれ1年間の交通事故発生件数と比較したものである。歩行者事故、車両事故については著

した減少傾向がみられるが、自転車事故はかなり増加しているのが注目される。

3. 生活ゾーン規制に対する住民意識 前記した7地区の住民意識調査から生活ゾーン規制の実施に対する地区住民の意識評価について考察する。

表-2 住民意識の変化(世帯票)

地区	交通量		駐車量		3発3発	
	増えた	減った	増えた	減った	増えた	減った
高倉内代	15.9	13.9	23.3	12.4	16.0	7.0
中宮大宮	28.3	11.8	22.6	15.9	12.3	12.3
小松大隅	24.7	4.4	32.2	12.6	6.4	16.8
高殿	18.7	18.0	19.3	7.3	17.5	7.5
平野	24.6	17.3	18.1	14.1	23.8	10.2
長栄寺	16.9	7.9	17.4	5.4	5.3	5.2
俊徳	25.9	15.9	29.4	7.9	11.5	16.3
平均	22.1	12.7	23.3	10.8	13.3	10.8

(1) 道路事情の変化(世帯票)

交通規制による自宅付近の道路事情の変化に関する設問で自動車交通量、駐車量、子供の遊ぶ時の危険性の変化について地区平均の割合を示すと表-2のようである。全体的には交通量が「増えた」と答えた人々の割合が高く、とくに、小松大隅、中宮大宮地区で「減った」と答えた人々の割合がかなり上回っている。とくに、道路整備の遅れている地区では住民の期待ほど改善効果が出なく、このような結果になったものと思われる。子供の遊ぶ時の安全性に関して「良くなった」と答えた人の割合が「危険になった」と答えた人の割合を上回ってはいるが、小松大隅、俊徳地区では逆に、危険になった」と答えた人々の割合の方が高く、他の地区においても10%前後の人々が「危険になった」と答えており、まだまだ問題点が残されているといえよう。

Takashi NISHIMURA, Setsuo TAKAGISHI, Akihiro MIHOSHI, Hiroyuki TAKAI, Koichi YANO

表-3 住民意識(交通環境)の変化(個人票)

(2)交通環境の変化(個人票)

交通規制により、各地区における交通環境の事前・事後比較と住民の住民の意識から見たものを表-3に示す。全体的に「良くなった」と答えた人の割合が悪くな

項目	高層音	振動	駐車迷惑	ほこり	排気ガス	歩道やすさ	横断のやすさ
地区	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった
高層音	18.4	9.9	18.5	9.3	19.3	22.6	15.0
振動	16.3	11.8	15.6	10.6	16.2	21.9	5.1
駐車迷惑	10.8	15.3	10.1	15.9	14.7	7.9	16.7
ほこり	23.1	7.0	18.2	7.0	17.2	11.9	16.3
排気ガス	17.9	12.7	15.7	12.1	17.7	21.5	9.2
歩道やすさ	15.1	7.8	10.4	10.9	17.3	5.9	12.9
横断のやすさ	14.0	12.1	11.9	11.1	10.1	22.4	6.1
平均	16.5	10.9	14.1	11.1	10.6	15.9	12.4

(表-3)のつづき

ったと答えた人の割合と上回っているのは、融音、振動、ほこり、歩道やすさ、交通安全、全体的な環境で

項目	車の便利さ	事故の不安	全体的な環境	走りやすさ	息苦し	騒音	交通安全	規制の実施
地区	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった	良くなった悪くなった
高層音	8.9	36.0	20.1	11.8	22.8	10.2	16.3	39.1
振動	6.4	27.4	19.5	12.6	20.2	11.8	13.5	37.8
駐車迷惑	5.4	20.3	5.4	20.3	10.3	15.2	4.5	31.8
ほこり	11.0	22.1	11.9	3.8	6.2	1.7	8.0	16.4
排気ガス	8.7	32.0	21.1	11.1	7.1	10.4	8.5	6.8
歩道やすさ	11.4	12.1	2.8	10.3	13.1	9.6	7.7	29.9
横断のやすさ	7.4	24.9	18.6	6.1	14.4	16.6	33.8	5.0
平均	8.3	25.0	16.7	10.7	6.2	10.2	13.7	6.3

あり、残りの半数の項目ではその傾向が逆転している。交通規制によって、車利用に対しては環境が悪くなり、歩行者に対しては多少改善され住民全体にも多少環境の改善を評価しているといえよう。また交通規制の実施の可否については、全体的には支持されているといえよう。

表-4 役に立つ規制と迷惑に思う規制

規制項目	速度制限	一方通行	大型車通行禁止	駐車禁止	信号機設置	歩道通行禁止
地区	役に立つ迷惑に思う	役に立つ迷惑に思う	役に立つ迷惑に思う	役に立つ迷惑に思う	役に立つ迷惑に思う	役に立つ迷惑に思う
高層音	14.7	3.8	66.0	27.6	15.0	3.8
振動	11.7	3.1	50.9	15.7	6.6	3.7
駐車迷惑	6.4	1.4	44.3	15.4	5.4	3.6
ほこり	11.9	7.1	148.3	20.4	14.3	4.7
排気ガス	9.0	4.2	52.9	20.2	9.6	2.9
歩道やすさ	8.8	6.8	46.2	13.2	3.9	4.5
横断のやすさ	5.0	3.7	53.9	15.2	5.9	3.2

の迷惑に思う割合は、全体的には支持されているといえよう。

(3)交通規制種類の評価 役に立っていると思う規制種類および、逆に「迷惑に思う規制種類」について地区別の評価を集計したものを表-4に示す。役に立っているものとしては半数以上の人々が「一方通行」をあげ、ついで「駐車禁止」、「信号機設置」をあげている。これに対し、迷惑と思われるものに就いては全体の割合は低い。「一方通行」、「駐車禁止」が多くなっており、この二つの規制に対する住民の評価にかなりの対立が見られるようである。

4. まとめ このように生活ゾーン規制は一定の効果を持ちながらも、現在の規制の状態ではかなりの問題点もあるようである。注目されるのは、交通量や駐車量が逆に増えているという意識が「減っている」という意識を上回っているにもかかわらず、総合的な住民の評価や、規制が結局良いか、悪いかにといった設問では規制を良いほうに評価する人のほうが多くなっている点であり、規制にかなりの問題点があっても、住民は概して前向きな評価をそれに加えていることである。また、いずれの項目でも「変らない」と答えた人が最も多く、現状の規制程度では環境に大きな変化と与えることばでないことも留意しておくべきであろう。

本研究にあたり、大阪府警本部交通規制課の方々の大きな御助力をいただき、ここに深謝する次第である。また、本研究は(財)日産科学振興財団より、昭和53年度より3年間にわたり研究助成金と頂いて実施している研究であり、ここに記して感謝の意を表します。

<参考文献>

1. 生活ゾーン規制研究会、生活ゾーンに関する基礎的研究(第1年度)、1979.3月
2. 三星、矢野、谷村、生活ゾーン規制と交通事故発生の変化に関する一考察、第24回国土学協会年次学術大会、講演要録、1979
3. 高井、西村、高岸、生活ゾーン規制とその効果に関する一考察